

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学術)	氏名 Author	MENOZA SHIKAINNAH GLOW DALUMPINES
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 Title of Dissertation Possibilities and Constraints of Flexible Citizenship in the Era of Neoliberal Globalization: A Case Study of Japanese-Filipinos			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	教授 関 恒樹		印 Seal
審査委員 Committee	教授 川野 徳幸		
審査委員 Committee	講師 中空 萌		
審査委員 Committee	准教授 中矢 礼美		
審査委員 Committee	教授 長坂 格 (人間社会科学研究科)		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review 本論文は、日本人とフィリピン人の間に生まれた日比国際児 (Japanese Filipinos , 以下 JFs) に注目し、彼/彼女らが日本、フィリピン、第3国を含むトランスナショナルな空間において、いかなるシティズンシップを生き、フレキシブルなアイデンティティを構築しつつ、生活戦略を編み出しているかを考察したものである。第1章では、JFs が生まれた歴史的背景の略述の後、問題の所在、先行研究の検討、分析枠組みなどが論じられる。特に分析枠組みとして、文化人類学者アイワ・オングの「フレキシブル・シティズンシップ」の概念が用いられる。第2章では、JFs の移動戦略の背景として、日比両国の国籍法や近年の日比経済連携協定について述べられる。第3章では、JFs のアイデンティティに影響を及ぼす NGO による JFs の表象が持つ権力性が論じられる。第4章では、フィリピン・ダバオの高等教育機関の事例から、日本での就労を目指す JFs が生み出される過程が論じられる。第5章では、JFs と両親、親族などとの親密な紐帯ゆえに、フレキシブルなシティズンシップ行使の試みがしばしば頓挫する状況が具体的事例に基づいて論じられる。第6章では、日本で生まれ育ちながら、フィリピンで高等教育を受ける JFs たちが両国のはざままで抱え込むアイデンティティの揺らぎが現地調査に基づいて論じられる。第7章では、フレキシブル・シティズンシップを生きる JFs たちが、日本の外国人労働者市場への適応の過程で経験する様々な周縁化と排除の経験が議論される。第8章結論では、フレキシブル・シティズンシップの可能性と拘束性の両面が、本研究のオリジナリティとしてまとめられる。このような内容を持つ本研究は、インタビューと参与観察から得られた一次資料に基づき、日本の多文化社会の一局面を浮き彫りにした貴重な研究であり、文化人類学による移民研究の文脈における少なからぬ貢献があると審査委員一同から高い評価を得た。なお、本論文の一部は既に査読付き論文 (Menoza, Shikainnah Glow D., Transnational Imaginaries of Japanese Filipinos and their Quest for Flexible Citizenship, <i>Journal for International Development and Cooperation</i> , 26(2), 2020) として刊行済みである。以上の審査により、本論文の著者は博士 (学術) の学位を授与される十分な資格があると認められ、審査委員一同の合意の下に、合格と判定した。			

(様式8)
(Attached Form 8)